

同志社国際中学校・高等学校

京都府 京田辺市

<私立 共学 帰国入試 転編入 寮>

[学校ホームページはこちら](#)



〒610-0321 京田辺市多々羅都谷60-1

近鉄京都線「興戸(こうど)」徒歩15分

JR学研都市線「同志社前」徒歩10分

帰国生在籍数(2025年4月現在)

中学203名 高校473名(全校生徒の約6割)

沿 革

同志社の創立者新島襄の精神に基づく「キリスト教主義」「自由主義」「国際主義」の教育理念を受け継ぎ、建学の精神「良心教育」を掲げ、1980年に帰国生徒受け入れ専門校として高等学校を設立、1988年に中学校を開校。

「違いという共通点からの出発」を基に多様性、自主性を尊重し、国際的な視野が広がる教育と生徒自身が何にでもチャレンジできる環境を整えている。2015年にSGH(スーパーグローバルハイスクール)認定を受け、2020年度からは文部科学省WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアム構築支援事業の拠点校として、持続可能な社会を担うグローバル人材育成に取り組む。また2024年度よりDXハイスクールの指定校となる。



教育の特色

① カリキュラム

- ・中高大までの一貫教育。文科省の検定教科書に基づき、学習指導要領に沿った指導を行う。
- ・海外での未履修分野がある場合や、日本語力が十分でない生徒は、少人数のM(ミニ)クラスで指導を受ける。
- ・高校では多様な選択科目がある。また、レポートやプレゼンテーションが評価の対象になる講座も多い。
- ・平和教育による人間育成を目指し、中2では長崎、高2では沖縄への研修旅行を実施している。

② 新島襄の教育理念

- 「キリスト教主義」・・・同志社教育の根本、聖書を通し「良心」を身に付ける教育。毎朝15分の礼拝を行う。
- 「自由主義」・・・「自主・自立」の精神のもと、自発的に行動し自分の力を発揮できる人物を育てる。
- 「国際主義」・・・異なる考え方や文化を持つ人々と関わり合う中で違いを認め合い尊重できる人を育む。

③ 語学教育

- ◇英語・・・中学は6段階、高校は4段階の習熟度授業で伸長を図る。上級クラスは生徒同士のディスカッションも多く、切磋琢磨しながらさらに力を伸ばす。基礎クラスはコミュニケーショントレーニングなどで実践力をつける。
- ◇選択科目としての第二外国語・・・ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、韓国・朝鮮語 各2段階編成。

④ 国際交流

長期休暇を利用した短期プログラム、高校2年生1学期に留学するFirst Semester留学、休学せず1年間留学できる長期留学(主に同志社国際中学校からの進学者に適用)に加え、校内での国際交流(海外提携先学校生徒の訪問受け入れ)、国際会議への参加など、さまざまなプログラムがある。

⑤ 進路指導

- ◇高大連携 高校卒業後は学内の推薦制度により約90%の生徒が同志社大学、同志社女子大学へ進学している。同志社大学で行われる高大連携プログラムや特別講座の受講、大学入学準備講座などがある。
- ◇海外大学進学サポート 毎年、他国の有名大学への進学実績あり。説明会、セミナー、試験攻略ゼミや個別の出願サポートを行っている。
- ◇その他、推薦指定校、一般受験など、個々のケースに合わせた指導を行う。



学校生活

① 学習面

- ・中学4クラス、高校6クラス 3学期制 登校 ～8:20 平日50分授業×6～7時間
- ・帰国生徒、国内一般生徒を隔てることなく同じクラスで学ぶ共習のスタイル。(習熟度別クラスの授業時は移動)
- ・校名に「国際」とあるが、いわゆるインター校ではなく、文科省の指導要領に基づく内容を学習。
- ・補習授業は設けられていないが、自主的に質問すれば個別指導を受けることができる。
- ・多数の洋書を含む図書館、自習スペース、視聴覚教室の機能を備えたコミュニケーションセンターが特徴的。
- ・平和教育を目的とした中2の長崎研修旅行、高2の沖縄研修旅行では、約1年間かけて事前、事後学習を行う。

② 生活面

- ・服装、頭髮などは自由。携帯電話の使用は可能だが、中学生は登校後個人のロッカーで保管。
- ・部活動も含めて、最終下校18:00厳守
- ・昼食は自由。お弁当持参、カフェテリアで購入、一部の高校生は大学の食堂まで足を延ばす生徒もいる。
- ・生徒主導の多数のイベントがある。日本文化の日ではゆかた、ハロウィンでは仮装し、日本や海外の文化に触れる生徒会行事もある。

③ 部活動

文化部、運動部、さまざまな部活動に生徒の約8割が参加。

④ 寮生活

- ・学校敷地内に高校生のみ対象の男子寮、女子寮あり。(3人部屋)
- ・Wi-Fi設備が整い、PC、携帯の使用が可能。
- ・長期休暇中は閉寮。
- ・両親が海外在住、または通学時間が1時間30分を超える生徒で、3時間以内に来校できる保証人がいることが入寮の条件。



帰国生徒受け入れについて

※帰国生徒認定要件、募集要項など最新の情報は、[学校ホームページ](#)でご確認ください。

【概要】

帰国生徒受け入れ専門校として設立。高校2年夏までの編入学試験を実施し、急な帰国にも対応できる制度を備えている。受験可能な言語は、海外で習得した外国語、すなわち、どの言語でも受験可能であり、このシステムを採用している学校は国内でも極めて珍しい。

① 求める帰国生徒像

「多様な価値観を受け入れて、新しい自分を構築できる人物」

「現地密着の生活を送り、その経験を発信できる人物」

② 選考

最新情報は必ず学校ホームページで確認が必要。

概略としては次の3通り。

1. A選考専願、特別推薦（語学資格条件を満たした生徒の専願）…語学資格、書類審査、面接
2. A選考併願（日本語以外を学習してきた生徒の併願）…日本語以外の作文（小論文）、書類審査、面接
3. B選考併願（日本人学校など学習してきた言語が日本語の生徒）…教科試験、書類審査、面接

（中学入試の英語は英検2級程度）

（補足）

◇帰国生徒在籍学校レポート…成績表を見る際に参考にする重要な情報となる。（加点材料ではない）

◇自己推薦書（高校）…質、量ともにしっかりと記入することが大切。事前に4～5人の教員が丁寧に採点したレポートを当日に面接官が受け取り（初見）面接をする。

◇面接…基本的に日本語で行われるが、面接官がネイティブ教員の場合、英語で問いかける場合もある。

日本語、英語の未習熟がマイナスポイントになることはない。本人の入学に対する意欲が問われる。

海外での活動でどのようなことを得てきたかを自分の言葉で伝えられるようにしてほしい。

◇作文（小論文）…A選考の作文（小論文）問題は、想像力、文章構成力、論理的思考、人間性などをみている。

細かなスペルミス、文法ミスの影響はない。過去問などで練習して臨んでほしい。

◇入学時期…中1、高1入試時に海外在住で海外の学校に在籍している場合（日本人学校は除く）、入学時期（4月または夏）を選択することができる。

◇帰国後の編入…中学は日本の中学に在籍しても編入可、高校は日本の高校に在籍した場合は編入不可。

◇複数回受験…12月入試で不合格の場合、2月に再受験可能。何度でも受けてください、とのこと。

◇海外入試…以前実施していた海外入試は現状再開の予定はないが、高校専願ではオンライン面接が可能な場合があるため、帰国せずに受験可能。

◇受験言語…中学A選考（専願）、高校特別推薦の語学資格条件リスト以外の言語で受験する場合は、A選考併願となる。

◇選考基準…提出書類、資格、作文（小論文）、教科試験、面接の全ての要素の総合判断。

現地での成績、特にその推移は重要な判断の材料となる。

◇日本語力…受験時の日本語力は問わない。その後の日本語の伸びは、いかに覚悟を持って入学するか次第。

ただ、高校ではカリキュラム上「日本語」の授業時間数に制限がある。

◇入学・編入学年…帰国時期、募集人数などを鑑み学年を下げて入学、編入している生徒も珍しくない。

③ 【重要】必要な準備(先生より)

◇帰国生徒認定手続き 出願前の指定された期間に帰国生徒認定手続きを行わなければなりません。

この認定がないと出願自体できないため、早めにご準備ください。

なお、帰国時期が未定でも、急な帰国に備えて認定だけ受けておくことは可能です。

◇海外在住証明書

帰国生徒認定手続きの際に必要な書類ですが、自営の方など、会社に所属していない場合、保護者ご自身で証明することはできません。大使館、領事館発行の在留証明書は在外時のみ発行可能、学校の在籍証明書はA選考のみ有効となっています。

◇語学資格証明

資格証明書は原本提出(後日返却)、TOEFLは公式スコアレポートが必要となります。計画的に準備を進めてください。

※受験資格、選考区分など複雑な部分もありますが、募集要項をよくご確認ください。

④ 受け入れ後の状況

- ・自由な校風だが、規律を守らない生徒には大変厳しい。内部進学者(同志社国際小、同志社小)、帰国生徒、国内一般生徒が混ざり、同じクラスで学ぶ。「日本語」の取り出し授業を必要に応じて行う。
- ・英語についていけるか、との質問を受けるが、個々のレベルに合わせたクラス編成になるため心配はない。
- ・常駐しているスクールカウンセラー、編入生徒が集まるクッキーアワーなど、相談に乗りやすい体制を整えている。

⑤ 復学制度

保護者の海外赴任等の場合は個々に対応。中学生の長期休学の場合、高校入試受験の可能性がある。

先生よりひと言

海外での生活を肯定し、伸びのび生活できる環境があります。世界中から帰国生徒が集まる本校で、さらに新しい自分を発見してみてください。海外にいる間は、現地密着の生活を楽しみ、さまざまな経験をしてきてください。



<https://www.youtube.com/watch?v=HQwoe29r-Zc> (学校紹介動画)



JR同志社前駅より坂道を上り始めると、右手には同志社女子大学、左手に寮が備えられた同志社国際中高の学舎が、そして、正面には同志社大学京田辺キャンパスが広がり、中高大の一貫教育が施されています。休み時間に英語や中国語が飛び交う生徒たちは帰国生徒が6割を占め、滞在国は世界70か国に及びます。多様な文化的価値観のもとで育ってきた生徒たちがありのままに過ごせる環境が同志社国際の最大の魅力です。そして、その環境を求め、近年では国内一般生徒も日本全国からやってきているそうです。ここ数年は、応募人数が増加し、倍率が高くなってきています。語学資格取得など、早めの準備をされると良いと思います。可能であれば、出国前に見学、相談をされると帰国時にあわてることなく準備ができるかもしれません。

帰国生徒受け入れ校、というと、国際的、語学力向上などが連想されることが多い中で、同志社国際のテーマ「違いという共通点からの出発」、訪問時に先生にうかがった、求める帰国生徒像への答えとして「多様な価値観を受け入れて、新しい自分を構築できる人物」とあるように、語学力の向上を第一とする教育ではなく、多種多様な人間同士が相互に認め合い、高め合うことができる生徒の育成を最大の目標とした教育が行われています。多様性が前提としてあるため、カリキュラムを超えての画一的指導はなく、補習授業も校内統一の留学プログラムもありません。放課後に先生に質問に行くことも、数ある留学プログラムを利用するのも、すべては自分次第、ということです。先生とのお話の中で、積極的な指導を求めているお子さん、長期留学のプログラムを期待されているお子さんなどは、もっと他に合う学校があると思います、とおっしゃっていました。海外大学への進学についても、学校側から勧めることはしないが、希望する生徒には十分なサポートをしていく、というスタンスで、一貫して生徒自らの意思を尊重している教育だと感じました。

訪問時に頂いた、校内向けの冊子に掲載されていた先生方の座談会の記事の中に頻繁に出てきた「非効率だけれど」という言葉が、同志社国際を表すキーワードだと思いました。学校運営上、帰国生徒と国内一般生徒を分けるクラス編成や、容易に点数化できる入試問題、校則で規制を強化することの方が指導上効率的とわかっていても、それが指導の本質にそぐわなければ、あえて非効率な道を選ぶ。先生方の効率を引き換えにして行われている教育は、たとえ成果が現れるまでに時間がかかったとしても、将来大きな力になることと思います。

今回取材に訪れた私たち2名は、いずれも帰国後に子どもを同志社国際に通わせた保護者でした。同志社国際の教育はときに「もっと指導してほしいのに」と親たちから声が上がることがあります。ただ、子どもたちは、皆個性的で、熱中できる何かを持ち、自信に満ち溢れています。親たちが心配していた勉強面も、大学の推薦が成績順に決まることから、高校3年が近づくにつれ力が入っていくように思います。また、思春期の多感な時期に、必要以上に周りの目を気にすることなく、自分を出していける環境で過ごすことのできた学校生活だったと思っています。

帰国後の学校選びは、一様ではありません。学校の強力な指導のもと、引っ張っていつてくれることが合う生徒、自分の力で進みたい生徒、さまざまです。子どもに適しているのか、どのような学校生活を送りたい、送らせたいかを家族で話し合っ、入学後のミスマッチなどを起こすことのない最適な学校選びができれば、私たちも大変うれしく思います。